

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
なき数に入る 名をぞとどむる  
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第105号

令和2年1月14日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

## 小楠公偲ぶ会、清掃や歌合唱続けて20年 小楠公墓所・社務所の瓦は、すべて「逆菊水」

＝ 菊水の流れに二流、四條畷でも発見！ ＝

### ● 「左から右」と「右から左」 ●

菊水の家紋に「左から右に流れる菊水」と「右から左に流れる菊水」の二流あることは、楠正行通信第58号でお知らせした。

家紋の下半分の水流が違うのである。

建水分神社、湊川神社、四條畷神社、河内往生院六万寺など楠氏ゆかりのほとんどすべての寺社・仏閣の寺紋・社紋の水流は、左から右に流れるものだが、楠正行ゆかりの寺社・仏閣には右から左に流れる、いわゆる「逆菊水」の家紋が残る。楠妣庵観音寺の瓦や水受け、如意輪寺本堂本陣の柱等に残る。



楠妣庵観音寺のある富田林を中心に南河内では、正成亡き後、久子の方が再び楠氏の隆盛を願って、今一度歴史の流れを変えようと、家紋の菊水の水流を変えた、との伝承が残っている。



四條畷は、楠正行ゆかりの地として全国に親しまれてきたにもかかわらず、この逆菊水の家紋の存在がほとんど知られてこなかった。

ついに四條畷に発見！

小楠公墓所の境内に残る社務所の瓦に、すべて、逆菊水



の家紋が刻まれていたのである。この社務所は、小楠公墓所ともども四條畷神社の管理下にあり、老朽化しているが今も小楠公を偲ぶ会が掃除など維持管理されている。

この間、大阪を襲った数々の台風の影響で、多くの瓦が風で吹き飛ばされ落下、それらの瓦は社務所の裏に積み置きされている。

### ● 久子、再び楠家に流れをと変える ●

1月11日、その内の一枚を小楠公偲ぶ会の坂本さんからお預かりし、四條畷神社を訪れたところ、米村宮司から「どうぞ、差し上げます。」と、いただくこととなった。

正行ゆかりの四條畷、その小楠公墓の社務所に、逆菊水の瓦が今も使われていることが分かった。

南河内のみならず、他の地域でも正行ゆかりの寺社で逆菊水の瓦が使われていたことで、久子の方が、正成亡き後、願ったとされる、菊水の流れを変えたということ、そして「楠木」の姓、二文字を「楠」の姓、一文字に変えたとの伝承を裏付ける貴重な発見となった。

(写真:左上、小楠公墓社務所の棟飾り鬼瓦 左下、同軒棧瓦 右、台風で落下した軒棧瓦)

## 小楠公偲ぶ会、発足 20 周年

### ● 令和 2 年、最初の命日に参加 ●

1 月 12 日（日）、午前 9 時 30 分から、小楠公墓所で小楠公偲ぶ会（坂本嘉一会長）の月命日正行公墓前参詣が行われた。

小楠公偲ぶ会は、毎月正行の命日にあたる 12 日に、小楠公墓所の境内清掃活動、墓所社務所の維持・管理などの奉仕活動をしなが、墓前で詩吟や歌などを奉納し、今年発足 20 周年を迎えられた。

この日も、最初に墓前で詔を奏上、続いて小楠公偲ぶ会の会歌を合唱、その後、詩吟 2 吟

「小楠公の墓を弔う」（杉孫七郎作）の合吟と、「静夜思」（李白作）の独吟が吟じられた。

続いて、扇谷自作の「楠正行」を独唱・奉納し、その後全員で「四條畷」（作詞・大和田健樹）、「青葉茂れる櫻井の」（作詞・落合直文）、「1 月 1 日」（作詞・千家尊福）、「富士の山」（作詞・巖谷小波）を合唱した。

直会に移る前に、社務所の屋根の瓦に刻まれている逆菊水の家紋について、扇谷から説明すると、「瓦に家紋が入っているとは気づかなかった。」「菊水の家紋の水流に二流あるとは初めて聞いた。」などと、異口同音に、正行ゆかりの社務所ということに感慨ひとしおといったところ。

### ● 詩吟、楠帯刀之歌の独吟に感激 ●

その後、社務所に入り、座敷で、小楠公偲ぶ会 9 名と特別参加の扇谷の 10 人で直会が始まった。

正行談議に花が咲く中で、感激したのは、詩吟「楠帯刀之歌」（元田永孚作）の披露であった。

メンバー最年長の小野五郎さんが、詩吟の中でも長くて有名な正行の生涯を描いた独吟、しかも諳んじておられるのでびっくりした。



逆菊水の家紋入りの瓦の話から、この社務所の建物の話になったが、明治 11 年、小楠公墓所の拡張・改修に合わせての建設ということで、140 も前の建設で、立派な欄間があり、かつてこの座敷では結婚式を挙げる人も多かったとのこと。しかし、老朽化が進み、台風等で瓦が落ち、とこ

ろどころ雨漏りもするというので、今後の維持・管理が心配との声も。

床の間には、菊水の家紋の入った新しい瓦が飾られていたが、左から右に流れる水流のため、ぜひ、屋根から落ち、保存されている右から左に流れる逆菊水の瓦を飾って下さい、とお願ひした。※翌日、坂本さんをお訪ねしたところ、扇谷さん、さっそく逆菊水の瓦を床の間に飾りま



した。」とのことでした。

この日は、関西のテレビ局の下見もあり、参加した皆さんからは、「20 年にわたって細々と続けてきた私たちの活動に、テレビ局の取材と聞き、ようやく光が差し込んできたように感じた。元気な間は、この活動を続けたい。」とお聞きし、ともに、正行顕彰に頑張りましょうとエール交換して、直会の席を後にした。



小楠公偲ぶ会の皆様、20 年間、ありがとうございました。今後とも、よろしくお願ひします。

（写真：中央、祝詞奏上する会員、左、「楠帯刀之歌」を独吟する小野さん（右）と坂本代表、右上、大楠の前で歌を唱和、右下、社務所室内に掲げられた偲ぶ会の銘版）

（文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭）